

研究課題名	外科系集中治療室における、レミフェンタニル導入の影響調査
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科麻酔蘇生学 教授 堤 保夫
研究期間	許可日 ~ 2029年 3月 31日
対象者	2017年1月から2027年3月の間に、外科系集中治療室にてレミフェンタニルもしくはフェンタニル投与を受けた患者さん。
意義・目的	集中治療を受ける患者さんは、意識がある/なしに関わらず、“痛み”を感じているとされています。よって、昨今の集中治療においては、鎮痛薬として医療用麻薬（＝オピオイドと呼びます。）の重要性が高まっています。以前本邦ではオピオイドはフェンタニルやモルヒネといった薬品しか使用できませんでしたが、新たにレミフェンタニルという新しい薬が保険適応となり、様々な場面で有用だと言われています。そこで、当院における外科手術後の集中治療室において、レミフェンタニル導入による効果や影響を調査したいと考えています。
方法	本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は身長、体重、性別、ASA、麻酔記録、周術期合併症、痛みなどです。 集中治療室で治療を受けている間の点滴の量やオピオイドの使用量なども収集します。 （個人を特定可能な情報は解析に用いません）
共同研究機関	なし
利用または提供を開始する予定日	本学における実施許可日
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 T e l : 082-257-5267 広島大学病院 手術部 助教 神谷諭史